

大阪母子保健研究 2-9 ヶ月時追跡データの結果 家庭内環境要因と乳児アトピー性皮膚炎疑い発症との関連

背景：ほとんどのアトピー性皮膚炎は5歳までに発症することから、妊娠中または出産直後の環境要因がアトピー性皮膚炎発症に影響している可能性が指摘されています。

方法：大阪母子保健研究のベースライン調査と生後2-9ヶ月時の第1回追跡調査に参加した865組の母子を対象としました。医師からアトピー性皮膚炎と診断されたか疑いがあるといわれた、もしくは局所ステロイド治療を受けた場合、アトピー性皮膚炎疑い有りとして定義しました。解析では、母親の年齢、妊娠週、年収、両親の教育歴、両親のアレルギー既往、乳児の追跡調査時月齢、年上の兄弟数、性別、出生時体重を補正しました。

結果：865人の乳児のうち、76名がアトピー性皮膚炎疑い有りでした。

妊娠中の寝具ダニ抗原量が(-)の群と比較して、(++)の群では、生まれた子供のアトピー性皮膚炎疑い発症のリスクを3.7倍高めました。妊娠中の台所のカビは1.9倍リスクを高めました。一方、妊娠中、リビングルームや寝室の掃除を週3回以上していた場合、週3回未満と比較して、生まれた子供のアトピー性皮膚炎疑いのリスクを約半分下げました。

生後、少なくとも1日1回以上入浴またはシャワーを浴びた子供は、そうでない子供と比較して、60%以上アトピー性皮膚炎疑い発症のリスクが下がりました。妊娠中の喫煙、カーペット使用、暖房器具、ガス調理器、生後の受動喫煙、子供がよくいる部屋の掃除やカーペットの使用とは、関連がありませんでした。

結論：妊娠中のダニ抗原曝露、台所カビが生まれた子供のアトピー性皮膚炎のリスクを高め、妊娠中の頻回掃除と生後の入浴、シャワーが予防的であるのかもしれない。

出典： Miyake Y, Ohya Y, Tanaka K, Yokoyama T, Sasaki S, Fukushima W, Ohfuji S, Saito K, Kiyohara C, Hirota Y, The Osaka Maternal and Child Health Study Group. Home environment and suspected atopic eczema in Japanese infants: The Osaka Maternal and Child Health Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2007; 18: 425-432.

表. 環境要因とアトピー性皮膚炎疑い

環境要因	オッズ比(95% CI)
妊娠中	
ダニ抗原(++)	3.68 (1.68-7.79)
週3回以上掃除	0.50 (0.29-0.84)
台所カビ	1.86 (1.08-3.15)
生後	
毎日入浴、シャワー	0.37 (0.17-0.86)